

No. 1666

# 明大 初代王者に

## — 7人制ラグビー —

第1回7人制ラグビー選手権が3月20・21日秩父宮ラグビー場で社会人・学生の強豪24チームが参加して行われました。4月中旬スコットランドで初の7人制ワールドカップが開かれるとあって熱戦が相つぎました。準決勝では明大が大学選手権で負けた法大と対戦し22:12で雪辱、社会人の本田技研との決勝戦に臨みました。明大は試合開始直後から本田技研陣内に攻めこみトライを重ね、明大の赤・青・緑・オレンジの派手なジャージーがグラウンド一杯にかけめぐります。本田技研も終了寸前、1トライを返したものの結局31:5で明治大学が圧勝、第1回7人制ラグビー選手権の王座につきました。

# 世界の伝統スポーツ

— 東京 —

民族色豊かな「世界の伝統スポーツ」の実演が3月11日世界から5ヶ国が参加して渋谷公会堂で披露されました。お隣の中華人民共和国からは羽のついた球を蹴る遊び「ジュンツー」が紹介されました。羽を地面に落とさず蹴り合うゲームで2000年の歴史をもち現在も子供から老人まで多くの愛好者の間で行われています。メキシコからは「チャレアード」縄を使ったカウボーイの妙技が舞台一杯に行われましたが、本来の乗馬した姿の演技が見たいものです。

ブラジルの「カポエイラ」は16世紀頃黒人奴隷たちの護身術だったのが当局に禁止されたため舞踊形式にして残したもので現在は格闘技よりも民族舞踊、精神修養を目的とするスポーツとして親しまれています。

日本の相撲と同じように試合前に塩をまいておはらいをするのはセネガル共和国の相撲「プレ」、2000年の歴史をもち農耕儀礼の一つで収穫後の豊穰を祝うためのもの。土俵はなく観客の人垣が土俵の役目を果たし相手が倒れるまで続けられます。セネガルではサッカーに匹敵する人気です。

ヤシの油を全身に塗って行うトルコ共和国の「チュルク・ヤールー・ギュレシュレリ」トルコ相撲は別名「油相撲」ともいわれ力士は取組前に大地への感謝の儀礼を行います。1500年の歴史を持つこの競技は草の上で行われ勝負は相手を仰向けに倒すと終わります。トルコ相撲の全国大会は大統領も出席する国民的行事であり、結婚披露宴やお祭りでも演じられています。

これからも世界各国の国土と伝統に培われた独自のスポーツに関心を深めたいものです。